

第18号

# 熱田高同窓会報

発行  
愛知県立熱田高等学校  
同窓会事務局  
TEL(052)-652-5858



同窓会ホームページ  
URL:http://  
www.atsuta.gr.jp/

熱田高校ホームページ  
URL:http://  
www.atsuta-h.aichi-c.ed.jp/



## 「第2回ホームカミングデー」熱田高校の歴史を見る

### 新たな目標に向けて

同窓会会長 佐々木元彦

豊かな収穫の秋を迎え、会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

今春、北角尚治氏校長(21回生)の後任として、第18代学長に三好博輝氏(24回生)が赴任され、引き続き卒業生をお迎えできたことは熱田高校ならびに同窓会としても大変名譽なことと存じます。

昨年は創立65周年記念事業を、会員の皆様方のご尽力で無事に終えることができました。

本年は多くの会員のお力添えをいただき、2回目の「語ろうホームカミングデー」を開催する事ができました。猛暑のなか対象回生を、10〜20回卒として母校にお迎えできました。開催を祝し、校舎2棟西壁に壁掛けタイプの衛星電波時計を副会長の山口直彦氏(18回生)より寄贈していただきました。本会からは皆様からのご寄付によって、昇降口へ2面丸形衛星電波時計を寄贈させていただきました。

参加者の方は、熱高の教育環境の現場を見聞いただき、「同窓生が何を母校に応援したら良いのか」ご理解いただけたものと考えます。いつで

も「熱田高校の卒業生です」と、胸を張って言い伝えられるよう努力してまいります。

さて会報11号からチラホラと皆様にお話しをしております校庭の「人工芝化」を、創立70周年(2021年)に向け実現する方向で取り組んでまいりたいと考えます。平成26年5月の「運動場人工芝化整備準備委員会会則」を実行委員会に格上げし、同窓会役員・クラス幹事・PTA役員OB会・サッカー部・陸上部OB会など、幅広い人材のお知恵をお借りしてまいります。都市部の校庭の防塵被害の防止、雨天時の排水汚泥防止・運動場の安全対策・サッカー競技の主会場、地域との連携・災害時の緊急避難場所・災害時の基地利用など、芝化による『利』は多大なものがあります。

現状の校庭は、愛時計焼け跡の瓦礫に土盛りした校庭のためか、2回の改修実績にもかかわらず、雨水の排水が非常に悪く2〜3日ほど経過しないと使用できない現状です。卒業生2万6千名の力を結集していただき「人工芝化」実現に取り組みましょう。

おわりに、会員各位の一層のご理解とお力添えをお願い申し上げます。挨拶いたします。

平成30年10月吉日

卒業生からの手紙

校長 三好 博輝



8月1日、第2回ホームカミングデーが、百数十名の参加者を得、和やかな雰囲気の中で開かれました。当日の様子を、後日、いただいた12回生の森勇一さんからのお手紙で紹介します。

『猛暑の候、いかがお過ごしでしょうか。突然の便りを差し上げ、申し訳ありません。8月1日の「母校を語ろうホームカミングデー」に参加させていただいた熱田高校12回生の者です。当日は、大変暑い日でしたが、体育館にて懐かしいスライドや同期だった向井滋春さん、内田玉苑さんの演奏を聞くことができ、思い出深い1日となりました。この行事を企画・運営された皆さんに、心より感謝いたします。卒業以来、一度も母校に出かける機会もなく、また一度も校歌を歌うことなく過ごしてきましたが、吹奏楽部の演奏のもと、熱田高校の校歌をみんなで歌ったときには、胸が熱くなりました。やはり母校は良いものです。式典が始まる前、飲み物を購入するため自販機のところまで丁寧に案内して

くれた運動部の男子生徒がいて感激しました。汗をふきふき、この日年配卒業生を校内見学ツアーに引率してくれた生徒諸君、本当にありがとうございました。校内見学の途中、図書室に案内いただきました。私たちの在校時代、図書室がどこにあつてどんな感じだったか、残念ながらもよく覚えていません。このたび母校の図書室を拝見させていただきました、大変アットホームな雰囲気になりました（以下省略）。当日の様子と、母校に対する熱い思いが伝わるお手紙でした。なお、森さんから図書室に本を寄贈していただきましたので、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

最後にになりましたが、同窓会長佐々木元彦様、同窓会事務局長万前秀男様をはじめ同窓会の皆様方の御尽力により、有意義な会となり、在校生にもながしか感ずるものがあったのではないかと思います。またその際、二棟西側と昇降口前の時計を御寄贈いただきありがとうございます。熱田高校の新たな時を刻んでくれることと思います。

同窓会の皆さまにおかれましては、これまでと同様、本校の教育活動への御支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成30年11月吉日

第2回 ホームカミングデー

教頭 清水 貴子



平成30年8月1日、熱田高校において第2回ホームカミングデーが開催されました。

今年の夏は、昨年を上回る異常なほどの暑い日が続きました。一学期の終業式は、熱中症対策の一環として体育館で式を実施せず、各教室で放送による式をした学校も、何校かあったと聞いています。本校は、体育館に冷房設備があるおかげで、終業式は予定通り体育館で実施することができました。ホームカミングデーの日も体育館はかなりの暑さが予想され、準備段階から熱中症対策に気を配りました。当日は、エアコンと扇風機をフル稼働し、何とか、無事に終えることができました。

当日は、2年生の生徒会長の司会で式典は進行しました。今回は、今も国内外で現役で活躍されておられるトロンボーン奏者の向井滋春氏（12回生）をお招きし、本校吹奏楽部と共演していただきました。プロの演奏家と一緒にジャズの名曲『サマータイム』を演奏する貴重な機会を

いただきました。吹奏楽部員達は大変刺激を受けたと思います。式典後は、本校サッカー部とのOB戦や茶華道部によるお茶の接待・写真部による撮影・図書文化委員によるインタビュアー・生徒会役員の内による校内見学会等を通じ、生徒と卒業生の方々が世代を超えて触れ合うことができ、貴重な体験となりました。

また、今回は記念品として同窓会から、屋外の大時計2台を寄贈していただきました。グラウンドのどこから見ても高いところから熱高生を見守り、励ましてくれることと思います。ありがとうございます。

熱田高校の先輩達に支えられて、今の熱田高校があるという事を強く感じた一日でした。

今後とも引き続き熱高生のために御支援・御協力いただきますよう、よろしくお願いたします。



トロンボーン奏者 向井滋春 (12回生)

# 語ろう 第2回ホームカミングデーの様子

2018年8月1日(水)



受付担当のPTA役員の皆様



琴 内田玉苑(12回生)尺八 後藤晴彦(15回生)



吹奏楽部と向井滋春氏のコラボ



校内視察



校長室で懐かしいアルバムを見る



おもてなし



校歌を歌う

司会をやらせていただいて

生徒会長 一ノ瀬 真菜

この度 8 月 1 日に行われましたホームカミングデーの熱田高校全校生徒を代表し、前期生徒会長として司会をさせていただきます。

私は生徒会を始めて 1 年半になります。ですが、始めたきっかけは先輩方と先生方から誘われたためです。最初は乗り気ではなかった私ですが、やってみると楽しくなりました。今では生徒会の時間が楽しみになりました。



そんな私が、大勢の同窓の皆様の前で、こうして司会をさせていただきますことは、貴重な体験であり、大変感謝しております。

私が司会者という大役を、緊張や心配事などなく安心してやらせていただくことができましたことは、事前行われた打ち合わせで、同窓会の皆様が会の流れや司会者をするときの喋り方などを、優しく教えてく

ださったおかげだと思っております。

当日は、琴と尺八の素晴らしい演奏や、吹奏楽部と同窓生様のコラボレーション演奏を聞き、元校長石黒先生や同窓会長様のお話も聞くことができました。また、生徒会役員として校内視察のガイドをさせていただきました。ときは、青春時代を過ごされた校舎や、校長室に置いてありましたアルバムなどに懐かしさを感じていただきました。図書館での委員会によるインタビューなども快諾され、ときおり私達の知らない熱田高校のことなどを教えてくださり、心温まる時間を過ごさせていただきました。御礼申し上げます。

校内視察が終わったあとでは皆様から『ありがとう』とお声掛けをいただきましたことがとても印象に残っています。他の生徒会役員たちも、楽しい時を過ごさせていただいたことで、終始笑顔でいることができました。

私は会長の役を後期から後輩へ送りますが、こうした素晴らしい経験を後輩に引き継いでいけるようにしていきたいと思っております。そして同窓会の皆様が、過ごしたような熱田高校であるよう、生徒会役員ともども尽力していきたいと思います。

第 65 号の校誌『熱田』より

◆特集 その 2

『熱田高校の施設について』

熱田高校の現状について話し合う特集が組まれておりました。内容は、質問・回答の形式で学校全般にわたる施設・設備に関するものでした。一例を紹介しますと、

○学校で一年間に使える修繕費・改修費はどのくらいですか。

○大規模改修の予定はどうなっていますか。

○部室やグラウンドの時計は直せないのでですか。

など多岐にわたる質問が回答されておりおりました。同窓会の寄贈で時計に関しては解決できました。



目録贈呈式



副会長 山口直彦 (18 回生)



電波時計 2 面式



電波時計

ホームカミングデーご協賛いただきありがとうございました。  
 写真の二面式電波時計は 学校へ寄贈させていただいたものです。なお、寄付など  
 ご賛同をいただいた方のお名前は、この「会報 18 号」の P.6 に掲載しております。

## 協賛金のまとめ

回	生人数	口数	金額
1	9	49	49,000
3	6	18	18,000
4	9	44	44,000
6	11	37	37,000
7	8	19	19,000
8	3	7	7,000
9	5	21	21,000
10	16	69	69,000
11	21	43	43,000
12	28	82	82,000
13	19	38	38,000
14	22	99	99,000
15	11	16	16,000
16	7	15	15,000
17	13	29	29,000
18	6	35	35,000
19	13	29	29,000
20	12	34	34,000
21	10	36	36,000
22	4	10	10,000
23	4	6	6,000
24	4	5	5,000
25	5	11	11,000
26	1	2	2,000
27	1	3	3,000
28	1	5	5,000
29	2	11	11,000
34	2	8	8,000
39	1	2	2,000
42	1	1	1,000
56	1	1	1,000
定時	2	20	20,000
匿名	4	6	6,000
合計	262	811	811,000
払込手数料			28,720

同窓会へ入金額 **782,280**

## 第 2 回 ホームカミングデー収支決算 報告

(平成30年4月1日から 平成30年9月7日まで)

【収入の部】	円
同窓会より 助成金	243,278
応募協賛金として (262人・811口)	782,280
合計	1,025,558
【支出の部】	
実行委員会費 3回 (5/24・7/20・9/7)	114,039
準備経費:として	
開催案内と配布物など 7件 (各4,000枚)	136,060
封筒・実施要項・ハガキ・振込用紙・チラシ 3件	
封書投函封入作業費	42,000
開催日経費に関して (実施日8/1)	
補助員謝金 生徒 @1,000円×100名	100,000
来賓 お車代 (@3,000×7名)	21,000
来賓・P役員・学校関係者・公演者などへの御礼 6件	87,490
「おもてなし」 (菓子代金・茶・コップなど)	33,419
案内用看板各種補充 一式	35,000
記録写真・焼き増し費用 3件	14,897
通信費 (一斉案内送付費 2件)・通信費 10件	356,148
ゆうちょ銀行 (振込手数料経費 2件)	5,467
事務用品・インクカートリッジ購入 14件	52,844
雑費 9件	27,194
合計	1,025,558

上記のとおり会計報告をします。

平成30年9月10日

会計代表 神谷和雄

執行代表 万前秀男

平成30年度第2回ホームカミングデー会計における証拠書類並びに  
 会計帳簿を精査したところ正確に処理されていることを認めます。

平成30年9月18日

監査代表 恒川良三

ご協力のみなさま方  
ありがとうございます。

見方について

例 熱田太郎②は、2口を表記、  
名前のみは1口を表記する。  
寄付応募者数 262名  
寄付応募口数 811口  
総合計金額 811千円

第二回 ホームカミングデー  
協賛金応募者一覧

- 【1回生】佐々木元彦②、山田稔③、小野昭、伊藤洋子、石田正敏⑩、都筑節子⑤、渡辺美都子⑤、野々垣綱光、大藪才子③
- 【3回生】村井忠宏②、岩田尚道、大谷信義⑧、岡村清治、平野舜一⑤、林みつる
- 【4回生】高山文子⑩、高塚佳江②、福田紀代子⑩・岡田紘次、田中省三⑤、平野孝次⑩、小島一夫③、熊崎茂登子②、中村弘②、
- 【6回生】堀勲夫、山田嘉作⑤、岩島禮子②、津田紀代子③、松本東美子⑤、道清吉美、万前秀男③、田辺孝子⑤、田島繁、三輪金丈⑩、稲生良造、
- 【7回生】山下富江、小林勝治⑤、浅野明夫、矢代嘉壽子、富田順雄、島袋邦夫⑤、佐野愛知②、古賀鎮皓③、

- 【8回生】井上亜夫③、奥村浩章、小倉章睦③、
- 【9回生】田島義文⑩、土方菊子②、馬野とも子③、小坂井利明③、田中小夜子③、
- 【10回生】手島富美子②、林雅子②、宇佐美修、井澤敏彦②、辻本枝美子、志水守③、中村和夫③、宮田賢一⑤、中野一寛、坪井登美子、大原秀子⑩、平敷道子⑤、林直樹⑩、山田清彦⑩、磯村希水子⑩、原田浩吉③、
- 【11回生】日比野良男⑤、井田幹雄②、正村達彌⑤、野村泰三、田中和枝、横江勝克、鈴木憲生、中村日出夫⑤、青山和代③、小出明、加藤畠一②、近藤幸子③、佐野勤、川村ひろみ、安田晨治、服部政一、渡邊好弘、石川誠、牧克己⑤、川村正行、伊藤忠、
- 【12回生】宇納一公⑤、永坂照子③、伊藤泰徳、熊澤洋芳、渡邊京子、内田美穂③、浅野俊一③、伊藤治由③、大塚ふみ子、清原貞夫③、戸荻恭紀、富田孝博、今井康幸、伊藤芳雄⑤、片岡啓介、藤森利雄⑤、森田文二②、光岡訓子⑩、内山博行⑤、山田昌弘③、斉藤勇基③、服部正典②、荻谷拓人②、久田厚吉、田中貴美子、土井貴美子、森勇一⑩、平野民子、山田芳敬③、

- 【13回生】横地美代子②、黒田敏樹、吉田茂雄⑤、宇佐美光男、平山正子、鬼頭文隆、田中十四男、鈴木秀樹、鬼頭みさを⑤、鈴木正一②、真木伸一⑤、石原みち子、二村映子⑤、花岡光男、清水正②、水谷善行、深谷延子②、山口直明、
- 【14回生】福島義広②、多田あさ子、小野耕治③、中田紀子、近藤岸子⑤、天野敏夫③、野寄誠⑩、河合秀一③、猪子幸正⑤、赤塚好章、近藤英夫②、豊田貢司③、富田秀実⑤、洲崎和也、青木実②、寺本学③、矢野進一⑩、渡辺雅仁③、土方慶②、服部和洋②、可知敏明⑩、大野加代子②、
- 【15回生】加藤雅裕、島本守②、後藤晴彦、北川和子、市村昭弘②、市橋雅之、大野俊彦、村上たず子、三井紀夫、松田哲夫②、後藤孝③、
- 【16回生】武田健治、齋藤洋子②、齋藤哲也②、貝谷嘉彦③、猪飼鉄夫、花井暢⑤、新田永子、
- 【17回生】柿崎賢一、鈴木敏子、宇佐美泉、田中光久②、館喜代孝、岡田雅仁②、星野博史⑩、渡辺浩一、布目菜穂子②、布目千尋、鹿島克彦③、大西茂子、中澤恒男③、
- 【18回生】神野明彦②、磯部光男⑤、服部映次⑩、山田雅彦③、橋本淳一⑩、花井貴子⑤、

- 【19回生】大澤豊⑤、鈴木一朗、宇津野一恵②、宇津野明彦②、服部俊志、木村隆秀③、恒川良三②、鈴木香②、今井勝②、古田博夫②、森英昌、江本喜美、東益子⑤、
- 【20回生】魚住勝己②、岩本秀和②、高木篤⑤、田中佳子、山崎正美③、松崎道夫③、平野正浩②、原田美恵、半田靖博、武田清美⑩、岡泰秀③、上田洋、
- 【21回生】伊藤公英③、村松豊③、服部雅則、岩本千景、北角尚治⑩、佐伯真理子⑤、堀田志げ子、吉田雄二⑤、水上勝博②、八木正⑤、
- 【22回生】安達紀子、伊藤宣男⑤、伊藤文一②、浅野豊志②、
- 【23回生】上田香子、相原喜子③、桐山敬子、鈴木計範、
- 【24回生】佐々木勝己、葛谷律子、伊藤友謙②、浅野憲行、
- 【25回生】伊藤武司、阿部文雄⑤、大島洋子、廣田典美、池松宣浩③、
- 【26回生】長坂直樹②、【27回生】松井昌司③、【28回生】安藤雅彦⑤、
- 【29回生】天野和彦、池内信康⑩、
- 【34回生】富川哲吉⑤、今井由子③、
- 【39回生】安達さやか②、【42回生】村瀬真吾、【56回生】福留晋弥、
- 【定時制】山口実徳⑩、加藤万佐司⑩、
- 【匿名】3件⑤ 【不明】佐金栄一、

# がんばれ熱高生

今回の「がんばれ熱高生」は旧職員の八谷芳樹先生と、3人のOBに原稿を依頼しました。12回生の清原貞夫先生、13回生の高野史枝さん、それに24回生の中島悟氏です。

早く志を立て、

充実した毎日を

旧職員 八谷芳樹



「若いのだから、毎日歩きなさい」と校長に諭され、神宮を東門から南門を経て学校へ、帰り

も同じ道を18年間昭和60年まで、高校の教員生活の半分を熱高で過ごしました。新設校の、まだモデル校の雰囲気が残る当時の熱田高校には、立派な校長のもとに優秀な先生たちが集まっています。芸術や文化活動が盛んで、温かく家庭的な環境、それらが醸し出す、先生と生徒の信頼関係など、かけがえのない宝物となりました。授業や

教育相談や進路指導、また教育や教師のあり方を学ぶことができたのです。おかげで75歳の今も、教育という仕事を楽しんでいられると感謝しています。

人生一〇〇年時代を迎え、いかに生きるかという論議が再燃しそうです。ライフサイクル論は、東洋では古くからあり、だいたい40歳が人生の半ばとなるようです。『論語』に



「四十にして惑わず」、『礼記』にも「四十にして仕事に精を出す」とあります。

森信三は人生を山登りにたとえ、40歳ころに山頂に立ち、それまでを振り返ると、後半の生き方がみえはじめるといっています。10代に志を立て、40歳までをどう過ごすかが、その人の残りの人生を左右するといふのです。40歳などはるか先と思うでしょうが準備には長い時間を要するものです。人生についても早くから、じっくり準備し努力しないと、人々のために仕事をしたり、社会の役に立つことはできません。

幸運なことに本年赴任した三好博輝校長は卒業生。優秀な卒業生を校長に迎え、恵まれた伝統と環境の中で、皆さんが今を充実して過ごせば一人一人の人生を充実したものとすることができるよう。長く勤務し、教員として基礎基本を学んだ私にとって熱高は、母校のような存在です。今後も三好校長率いる熱田高校を、応援し見守っていききたいと思っています。

(大阪国際学園顧問・(二社)実践人の家理事・元千種高校校長・元愛知学院大学教授)

## 学生からの誕生祝いケーキ

12回生 清原 貞夫



今年の8月、12回生の同期会が開かれました。遠方ということもあり、なかなか参加

加の機会を持っていませんでしたが、念願の初参加をさせてもらいました。卒業以来の懐かしい恩師・友人達に会い、当時の出来事が走馬灯のように思い出されました。恩師大竹(旧姓吉村)由紀子先生ともお話ができて、50年以上前に受けた学びの瞬間がよみがえり、大変すばらしい時間を持つことができました。

私は高校卒業後三重大学4年。名古屋大学大学院5年、米国フロリダ州立大学研究員2年を経て、1978年4月に鹿児島大学教養部に生物担当の講師として赴任し、後教授となり、学部編成に伴い理学部に移動。理学部長を4年勤め、現在は副学長・教育担当理事として勤務しています。40年間の勤務のうち、3分の2を研究・教育、後の3分の1の期間を大学の管理運営に従事してきました。私は、幼少の頃より魚に関心が深く、大学の卒業研究以来一貫して魚をつかって研究してきました。味覚の鋭いゴンズイ(海のナマズ)・ヒガ

ンブグ・ヒメジ等を中心として魚の脳・味覚の研究を行い、その成果を40年間で約50編程の論文にまとめ、動物の感覚と脳の進化を考え続けてきました。長年の研究成果の集大成として、2014年6月に著名な科学雑誌であるScience誌に論文が掲載されました。その内容はゴンズイが、ゴカイなどの餌生物の呼吸によって生ずる、海水の僅かな水素イオン濃度(PH)の変化を感じて餌を探すことを明らかにしたものです。同時にこの餌生物の呼吸を感じて餌を探すという魚の能力は、地球温暖化に伴う海水の酸性化によって消滅



する可能性があることも示唆しました。

Science誌に載ったこの研究は、鹿児島大学で米国との国際共同研究

として展開し、結果にたどり着くまでに30年間費やしました。その間親友となった米国人研究者も10回以上鹿児島大学を訪れ共に研究活動を行い、途中多くの学生も参加しました。研究は決してうまくいく時ばかりはなく、暗中模索の期間も長く、長い議論と試行錯誤の末にたどり着いた成果でありました。

魚が好きで、魚の感覚が知りたい一心で夢中に研究に打ち込んだ結果が今日です。その間、研究と共に多くの学生に出会い研究指導を行い「有為な人材」を社会に送りだす幸福も体験させて頂きました。趣味は釣りりと美味しい魚を食することであり、正に『魚にはまった』人生を送ることが出来たことに大きな喜びを感じています。

私から若い皆さんに送るメッセージは、好きなことを見つけてそれを継続的に追及してほしいということです。

今からあなた達は、予測困難な時代に向き合い時代を読み解き、自己の生き方の哲学と生活の糧を得る能力を育んでいかなければなりません。その第一歩は学習習慣を身に着け、知識と技能を土台として考える力を磨いていってください。心より諸君の活躍を祈り、期待しています。

(鹿児島大学副学長・理事)

自分の小さな芽を

みつける時期

13回生 高野史枝(旧姓 松島)



資料の整理をしてい  
たら、高校2  
年生の時に  
親友と交わ

していた「交換日記」が出てきた。他愛ない文章に並び「人は何のために生きるのか」「今の社会はこれなのか」など、「大きな」テーマについても熱く語りあっている。おどろいたのはその量。とにかく毎日毎日2〜3ページにわたって飽きもせず書き綴られていたのだった。

高校時代の私は文芸部。高橋和己やサルトルについて激論を交わし、学園祭には「詩劇」なるものを上演し、同人誌「辰星」(辰

の上に日)を発行した。

熱田高校には『熱田賞』という表彰制度があった。その文化部門(小説)で『第2回熱田賞』を受賞したことは、私の密かな誇りになっている。「書くこと、読むことが好きでたまらない」「もしかして、自分

とに向いているのか」「書く仕事です」と働いていたらどんなにいいだろう」という思いが芽生えた。

大学卒業後、出版社で15年働き、その後フリーランスのライターとして独立。雑誌や新聞で記事を書き、本の編集をし、ラジオやテレビの番組の構成作家(兼パーソナリティー)としても仕事を続けてきた。映画評論(エッセイ)を長く書き続けたことをきっかけに、映画監督としてドキュメンタリー映画(「厨房男子」)の製作もした。現在、次の作品「おっさんずルネッサンス」を4月撮影開始、2019年内に完成予定です。

熱田賞以後、賞とは無縁で世間的にも無名だけれど、とりあえず私は書くことを仕事にして食べていっている。成績はバツとせず運動は苦手、音楽・美術などの芸術にも縁遠かつ





た高校時代の私だが、そのころにたつた一つ見つけた自分の芽を必死で育て、それを仕事にすることが出来た。結局、高校時代とは、「自分の個性を知り、将来の可能性について考える時期」なのではないだろうか。そこに友人や先生方の影響があることは言うまでもない。

多感な高校時代、熱田というユツタリとして豊かな土壌があったからこそ、自分の小さな芽を育てることができたんだなア：と、いま、改めて感謝の気持ちが湧いてくる。

(フリーライター・映画監督)

### 谷間の世代

24 回生 中島 悟



本年度熱田高校に着任した三好博輝校長は、

私達24回生の同期生です。また3年生秋選手権大会まで活動を継続したサッカー部の主将であり、良き蹴友でもあります。

昭和48年度の入試改革によって愛知県は、学校群制度を導入しました。サッカー活動が目的で熱田高校を志願する受験生は、2分の1の確率で、運が良ければ本校サッカー部

に入ることができるといふ時代となりました。学校群制度の影響で、昭和51年度のサッカー部員は、30名ほどで、中学でのサッカー経験者がわずか5名という状況でした。伝統ある熱田サッカー部の中でおそらく私たちが最も期待外れの世代であったのかも知れません。私たちが新入部員として活動し始めて間もなく、先輩たちは、3年連続でインターハイ(全国高等学校総合体育大会)出場の偉業を達成しました。県大会優勝の瞬間、感動した私たち新入生は、一気にサッカー中心の生活になっていったのです。



卒業アルバムから 前列左端 中島君・5番目三好校長

しかし、その年の夏から同期のサッカー部員は、厳しい練習や学業の不安などを理由として、徐々に減少していききました。私たちが2年生になると、サッカー経験者が多い新1年生が入部してきました。偉大な先輩たちと、この後輩たちの間に期待外れの蹴団が存在し、いつかして24回生のサッカー部員は「谷間の世代」と称されるようになりました。学業が疎薄な状態で最高学年になった「谷間の世代」は、9名が残留しましたが、秋の全国高校サッカー選手権大会を目指すころには、6名になっていました。その中でも頑として文武両道を貫く優等生もいました。「谷間の世代」は、年3回ほど集まる機会があります。言うまでもなく三好校長着任後の5月に集合した蹴友とサッカー部以外の親友たちは、彼のこれまでの業績を称賛すると共に、これからの3年間、校長としての責務を激励しました。そこで24回生同期会の提案があつて、平成30年11月3日の開催を決定。同期会には外山幸男先生・深谷登志江先生・今西英雄先生がご臨席されてご挨拶をいただきました。恩師の先生方との楽しい歓談から、私たちへの相変わらない深い心情を感じることができました。会は「谷間の世代」から、母校の校長先生が誕生した驚喜で盛

況になりました。近年の愛知県高校サッカー界は、人工芝を設置した私立高校が強豪校となっておりません。私たちは、サッカー部の皆さんが文武両道の高い志を持って、3年生最後の大会まで部活動を継続して下さることを願っています。

(有) J・クリエイティング代表



熱田高校さわやかサッカー教室・未来の熱高生



熱田高校の今

今年の熱高祭の写真をまとめてみました。「我々の時代とあまり変わっていないなあ」「今の熱高祭はこんなに変わったのか」「自分の時代と比べてみるのも。高校時代が懐かしく思い出されると思います。

文化祭



# 体育祭



# 修学旅行



同期会便り

傘寿を祝う2回生同期会

2回生 中野道孝

私達2回生は、平成30年度に80歳になることから、去る7月12日に金山のサイプレスガーデンホテルで、傘寿を祝う2回生同期会を開催した。



A組担任 日比野文一 先生

幹事の間で相談し、正式な同期会は今回で最後にしようと思われ、そのことを案内状に明記した。そのことがあつてかどうかは分らないが、出席者は30名を越えた。遠くは鹿児島・横浜からも出席してくれた。卒業後62年振りに初めて出席したという人もいて、予想外の反応であつた。会は幹事代表の挨拶で始まつた。「太陽が沈む前に美しい光彩を放つように、晩年も案外素晴らしいことが待っているかもしれない。これからも元気で頑張っていきたい」という趣旨であつた。続いて、ご来賓としてご出席して頂いた恩師の日比野文一先生からは『皆さんは傘寿とい



B組の皆さん

うことであるが、私の年になるには、まだ17年もある。これからも健康に留意され、充実した人生を送っていただきたい』と、お祝いと激励の言葉をいただいた。

乾杯の後、歓談タイムになつたが、折角の機会であつたので、近況の報告を兼ねてスピーチをお願いしたところ、多くの人が快く引き受けてくれた。卒業後一貫してサッカーに打ち込んでいる人・演劇に取り組んでいる人・合唱団で活躍している人・バラの栽培を楽しんでいる人・油絵に熱中している人等様々であつた。

なかには、サミュエル・ウルマンの「青春」の中から、「希望のある限り若い・・・」という一説を引用し「希望を持って頑張ろう」とエールを送ってくれた人もいた。皆それぞれ永い年月にわたる実績に裏付けられた自信が感じられた。拝聴していて、人生の目標や生き方など大変勉強になった。30人を超える人が集まると、自然に話に花が咲き、楽しく盛況な会になつた。予定していた2時間30分という時間は「あつ」と言う間に過ぎ去つてしまつた。

最後は、合唱団で活躍している人の指揮で校歌を斉唱し閉会した。

80年という年月を振り返ると、はるばる来たものだという感慨を感じ



C組の皆さん

るが、また同時にこの先を思うと、体力・気力が低下していくなかで、未知の世界に進んで行くような不安を感じるのも事実である。しかし、今や人生一〇〇年時代と言われている。同期会で級友達から貰つたパワーを心の支えとして、しっかりと前を向いて歩いていきたいと思つた。最後になりましたが、同期会の開催にあたり同窓会からご支援いただきましたことに御礼申し上げます。





### 5 回生同期会

5 回生 新原 慶昭

伊勢湾台風に遭遇してから60年。日々病と共に、元気に過ごしている80歳に近い同期の私達が「生きていく証」として、最後となるかも知れない同期会をローズコートホテルで実施した。幹事は5クラス10名で会場となるホテルで会合を重ね、連携をとり当日を迎えた。

同期生は、家族の生活環境により、出席出来なかった方々も少なくなかった。約30%、59名の出席者のもと、同期会が好天に恵まれ実施できた。記念写真から始まり、楽しい宴会が始まりました。時は平成30年11月17日です。

まさに生きていく証しとしての同期会です。皆が背をタタキ合い、18歳に若返った気持ちで楽しい秋のひと時を過ごす事が出来ました。

最後に「高校三年生」と「校歌」を合唱して惜しみながら、無事終了しました。総合司会の伊藤元雄氏の軽快で絶妙な司会のもとで、各自がマイクを握り思い出話や感謝の言葉を述べると皆がうなずいていた。共通して言える事は「今自分がここに居られるのは、皆様のおかげであります。感謝しています」そして「ありがとう」と言う事でした。楽しい秋の一日を過ごしました。

終わりに、同窓会の皆様にも感謝申し上げます。有難うございました。

### 14 回生同期会開催

14 回生 洲崎 和也

平成30年11月10日 金山サイプレスガーデンホテルにて同期会を開催しました。

平成22年より毎年開催しており、今年で9回目。参加者は、横浜・相模原・郡上・高山・神戸などの遠方からの者も含め68名でした。約3時間の宴、途中ビンゴ大会も行い、大



変盛り上がりました。近年、参加者も増えたゴルフ分科会は、ご夫妻での参加者もおられ、年2回程度開催しております。部活やクラス、国内外の旅行の集まりも多々行われております。70歳を前にして体調を崩す人も多く、いつまで続けられるか判りませんが、3年間同じ学び舎で過ごした仲間との絆を末永く続けられるように考えております。

余祿の人生を楽しく過ごす仲間との巡り合わせに同期会が関与できる事のすばらしさを感じております。

### 兩二モ負ケズ!

### 17 回生同期会

17 回生 那須 圭子

5年ぶりの17回生の同期会は、台風24号が近付きつつあった9月29日、浩養園にて行われました。台風のせいかな、参加者は66名と、前回に比べ寂しい数字でしたが、台風をものともせず、奈良や関東、遠く北海道からの参加もあり、万前秀男先生・市川次郎先生・浜島(古沢)清治先生・八谷芳樹先生・今西英雄先生に来ていただいて、賑やかな会となりました。

私たち17回生は今年65歳になり、男子は、接待ではないゴルフ会や食事会を楽しめるリタイア組が増えて



きました。一方女子は、休日でもお酒を飲まずに急患に備える歯科医や、フアッション界を牽引するデザイナーなど、現役で活躍している人もいます。皆、懐かしい顔を見つけて話し込んだり、「あの席にいる子、誰だっけ？」と変貌ぶりに驚いたり。意外な思い出話に大笑いし、自身の健康、親のこと、子ども・孫のこと…。話は尽きず、あつという間に予定の2時間が過ぎて、1時間延長してもなお名残惜しく、やっと解散して二次会へと流れました。

このような楽しい時間が持てるのも平和なればこそ。持続可能な社会・平和な世界を目指して、私達より半世紀後の現在の学校現場では、ESD (Education for Sustainable Development) 持続可能な開発のための教育) に取り組み、貧困・紛争・環境など、地球規模での問題を解決する担い手を育む教育が実践されています。私たちもその一助となり世界をつなぐ礎になれるよう、できることを一つずつ重ねていきたいと思っています。そうして、また5年後に元気に再会できますよう！ 幹事の方々のご尽力に感謝して結びといたします。ありがとうございました



熱田高校サッカー部OB総会  
25回生 阿部 文雄

平成30年3月の教職員異動でサッカー部OBの三好博輝氏(24回生)が、第18代学長として着任され、更に水谷 優君(48回生)も赴任されました。お2人は熱田高在学1年時インターハイ出場を経験されています。久しく全国大会出場の吉報を聞いておりませんが、お2人の着任祝と現役生徒支援のため、OB総会を6月10日(日)金山サイプレスガーデンホテルで開催しました。急な連絡にも関わらず、佐々木元彦会長をはじめ52名のOB・マネージャーOG・父母会の皆様方が集まり盛況な会を催すことができました。ご来賓挨拶・青木宏憲監督(23回生)による現役報告・OB会の活動報告が発表され、現役生への支援を約束しました。

OB会員は、懐かしい同窓生や当時の先輩・後輩の語らいの中で、当時の思い出や熱田高で「サッカーを志して良かった」と感じたことと思います。OBの中には、現在もサッカー関係の仕事に従事している会員が多数おり、母校への協力も可能です。今後も熱田高校サッカー部の発展と活躍を期待しております。



事務局だより

会員名簿2017年版の申し込み

創立65周年記念版会員名簿は、平成29年12月紆余曲折はありましたが発刊。申込者へは発送を完了できました。注文後の印刷販売であり、増刷の予定は全くありません。ご購入を希望される方は、残部として、36冊事務局にあります。お申し込みをお忘れの方は、熱田高校同窓会事務局宛にハガキで送付先・連絡先をご記入の上、お申し込みください。なお、ご購入をされた会員各位は「会員名簿」の管理について、個人情報を流出しないよう十分なるご留意をいただきたくお願い申し上げます。業者からの名簿の問い合わせ（進路先・住所・電話等）には同窓会は一切お答えしません。母校職員を装い電話で進学先・住所・電話番号などを

聞き出す者がいるようですが、母校及び同窓会ではそのようなことは一切しておりません。

会員名簿に關しましては、同窓会は(株)廣濟堂に依頼しております。それ以外は、母校及び同窓会とは一切関係ありませんのでご注意ください。もし、ご不審な点がありましたら、(株)廣濟堂または事務局までご連絡ください。なお、名簿は同窓会会員のみにしか販売していません。



2017版12月発刊

今回の会員名簿に關して

表紙裏は、校舎を囲む周辺地域の変化があつて、校舎・校地を含む全風景を取り換えました。2ページ分の熱田の記録写真を添付。協賛広告

の目次を掲載。内容の総ページ数は633広告等の総ページ数30あり、合計663ページとなりました。

あとがき 毎回報告しておりますが、「会報部」では原稿集めに苦心しています。「がんばれ熱高生」への原稿をお待ちしております。自薦は大変ありがたいことです。特に女性の方は歓迎します。他薦でも構いません。良いと思う人材を会報部(万前・谷澤)まで紹介ください。

現在、社会の右傾化が進みグローバルゼーションから、各国の保護主義への変化が目立ちます。戦後覇権国家となったアメリカでさえ、トランプ大統領出現後「アメリカ第一主義」と称し、共存共生は等閑となり、アメリカ国内に分断化が進みつつあります。リンカーンは、「家の内が分かれば争う時、その家は立ちゆかない」と言っています。アメリカの分断傾向は、不安を書き立てられ、偏狭なナショナリズムの拡大に危惧を抱き

訃報

Table with 2 columns: Name and Birth/Death info. Includes names like 村本邦夫, 佐藤庸一, 鈴木良男, etc.

ご逝去に接し、謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共にお知らせいたします。(係より) クラス幹事の皆様へ 訃報は悲しい出来事ですが、事務局まで葉書でご連絡ください。

編集委員 谷澤・万前・道清・柿崎 題字 初代書道教諭 名郷紫山



役員一覧

平成30年8月1日現在

- List of officers and members including 会長 佐々木元彦, 副会長 波田忠, 事務局長 万前秀男, etc.